

サイクルコンピューターSGX-CA500との接続手順



SGX-CA500

ペダリングモニターモード時の接続手順です。①～③の接続準備完了後、以下の④～⑦の設定を行うことでご利用いただけます。

注：以下の設定例はセンサーがSGY-PM910Zの場合です。

SGY-PM910ZL/ZRの場合は、それぞれ左側/右側のみ設定を行います。

④ペダリングモニターモード切り替え・ペアリング

デバイス番号を入力

チェックを入れる

ペアリング完了

・ペダリング効率・ベクトル表示を使用するには、ペダリングモニターモードに切り替えます。

本設定をすることにより、ペアリングも完了します。

注：モード切り替え・ペアリングできない場合、センサーがスリープ状態に入っている可能性があります。その際は、クランクを3回転ほど回転させて、センサーを起動してください。

⑤マグネット検出/固定

・マグネットが正しく検出できるか確認します。

a.「オプション」→「ペダリング設定」→「マグネット校正」を選択します。

b.「校正スタート」のボタンは押さずにクランクを2秒に1回速度でゆっくり正回転させて、1回転ごとにカウントが1つずつ上がることを5カウントまで確認します。

①で仮固定したマグネットの裏側の剥離紙を剥がして同じ位置に本固定します。

⑥マグネット校正

・マグネットの位置情報を記憶します。

a.「校正スタート」ボタンを押します。

b.クランクを2秒に1回速度でゆっくり正回転させて1回転ごとにカウントが1つずつ上がることを5/5カウントまで確認します。

c.「保存」ボタンを押し、「成功」と表示されたら「OK」ボタンを押します。

⑦ゼロ点校正

「オプション」→「ペダリング設定」→「ゼロ点校正」

・パワーがかかっていない状態を記憶させます。
a.クランクアームを地面に対して垂直になる位置で静止させます。

b.「オプション」→「ペダリング設定」→「ゼロ点校正」を選択します。

c.「左右ゼロ点校正」ボタンを押します。

d.「成功」と表示されたら「OK」ボタンを押します。
以上で設定は終了です。

他社製 ANT+サイクルコンピューターとの接続手順



ANT+サイクルコンピューター

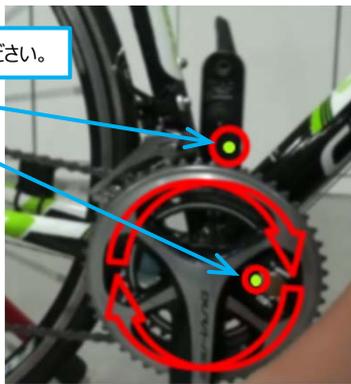
シングルパワーメーターモード、デュアルパワーメーターモード時の接続手順です。
①～③の接続準備完了後、以下の④～⑥の設定を行うことでご使用いただけます。

注：以下の設定例はセンサーがSGY-PM910Zの場合です。

SGY-PM910ZL/ZRの場合は、それぞれ左側/右側のみ設定を行います。

④マグネット検出/固定

LED: 1回転に1回、**緑色**に光ることを確認してください。



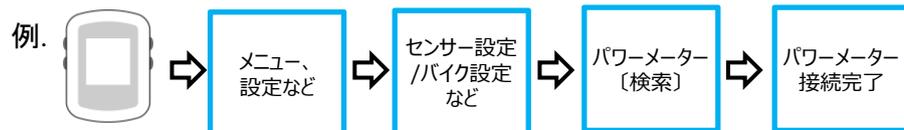
・センサーがマグネットを正しく検出できるか確認します。

②でセンサーを起動後、5分以内にマグネット検出を行ってください。

クランクを2秒に1回の速度でゆっくり回転させて、1回転ごとにLEDが緑色に光ることを5回転以上確認します。

①で仮固定したマグネットの裏側の剥離紙を剥がして同じ位置に本固定します。

⑤ANT+ サイクルコンピューターとのペアリング



ANT+サイクルコンピューター



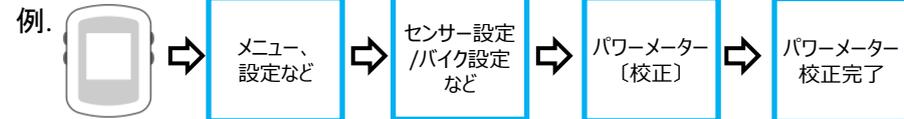
検索で見つからない場合
デバイス番号を入力

デバイス番号

詳細な手順は、他社ANT+サイクルコンピューターのマニュアルをご確認ください。

注：ペアリングできない場合、センサーがスリープ状態に入っている可能性があります。その際は、クランクを3回転ほど回転させて、センサーを起動してください。

⑥パワーメーターの校正



ANT+サイクルコンピューター

詳細な手順は、他社ANT+サイクルコンピューターのマニュアルをご確認ください。

以上で設定は終了です。

※**シングルタイプを追加購入の場合は手順が異なります。**

追加購入により、SGY-PM910ZL/ZR左右のセンサーが揃ったら、現在、左右それぞれシングルパワーメーターモードとなっているのをデュアルパワーメーターモードにモード変更します。

モード変更後は、上記、④～⑥の設定を行うことで使用いただけます。

[シングルパワーメーターモード → デュアルパワーメーターモード への切り替え手順]

- ・電池を抜き差しした後、右側送信機内のプッシュスイッチを3秒長押しする。LEDが**緑色**に点滅開始し、次に**オレンジ色**に**高速点滅**します。
- ・左右のセンサーが**高速点滅**していることを確認し、再度プッシュスイッチを3秒長押しする。
- ・デュアルパワーメーターモードに切り替わり、LEDが**オレンジ色**に10秒間点灯します。



詳細は、取付・校正マニュアルをご確認ください。 <http://pioneer-cyclesports.com/jp/support/products/>

**SGY-PM910Z/ZL/ZR
販売店様向けマニュアル**

目次

1	準備	4
1.1	製品の確認	4
1.2	手順概要	4
1.2.1	SGY-PM910ZL/ZR と ANT+サイクルコンピューターの場合	4
1.2.2	SGY-PM910Z/(ZL+ZR) + ANT+サイクルコンピューターの場合	4
1.2.3	SGY-PM910ZL/ZR/(ZL+ZR)/Z +SGX- CA500 の場合	5
1.3	本製品のモード	5
2	モード切り替え	6
2.1	ペダリングモニターモードへの切り替え	6
2.1.1	SGX-CA500 の CycloMeter 画面でメニューボタンを押す	6
2.1.2	[オプション] - [ペダリング設定] - [モード切り替え] の順にタップする	6
2.1.3	デバイス番号表示部分をタップする	6
2.1.4	デバイス番号を入力して [OK] をタップする。	7
2.1.5	自転車のクランクセットを 3 回以上回転させて、左右の送信機を起動する	7
2.1.6	[ペダリングモニター] をタップする	7
2.1.7	SGX-CA500 のセンサーリストに追加にする	7
2.2	デュアルパワーメーターモードへの切り替え	8
2.2.1	[方法 1]右送信機のプッシュスイッチで切り替える	8
2.2.2	[方法 2] SGX-CA500 でモードを切り替える	10
2.3	シングルパワーメーターモードへの切り替え	10
2.3.1	[方法 1]右送信機のプッシュスイッチで切り替える	10
2.3.2	[方法 2] SGX-CA500 でモードを切り替える	10
3	マグネット検出/校正	11
3.1	マグネットの仮止め	11
3.1.1	パッチタイプマグネットに仮止め用のマスキングテープを貼り付けます。	11
3.1.2	クランクを回転させ、マグネットを取り付ける位置を確認します。	12
3.1.3	マグネットを仮止めします。	12
3.1.4	クランクをゆっくり回転させます。	12
3.1.5	キャノンデール製クランク (SiSL2/Si)マグネット取付時の注意	13
3.2	マグネット検出(他社サイクルコンピューター使用時)	14
3.2.1	準備	14
3.2.2	マグネット位置の検出	14
3.3	マグネット校正 (サイクルコンピューターSGX-CA500 を使用時)	15
3.3.1	準備	15
3.3.2	マグネット位置の検出	15
3.3.3	マグネットの固定	16
3.3.4	マグネット校正	16

4	サイクルコンピューターとの接続.....	17
4.1	センサーのモードを確認する.....	17
4.2	左右のセンサーを起動させるためにクランクを 3 回以上回転させます。.....	17
4.3	サイクルコンピューター SGX-CA500 で接続するセンサーを選択します。.....	17
4.4	[検索] をタップします。.....	18
5	ゼロ点の校正.....	19
5.1	ゼロ点の校正を選択します。.....	19
5.2	校正を開始します。「左右ゼロ点校正」をタップします。.....	19
5.3	校正の確認.....	20
5.3.1	クランクにかかる力が 0 (無負荷) であることを確認します。.....	20
6	ペダルコピー.....	21
6.1	CycloMeter 画面でメニューボタンを押す.....	21
6.2	[オプション] - [ペダリング設定] - [ペダルコピー] の順にタップする。.....	21
6.3	バランスを変更したい時は、[左:右バランス] をタップする.....	21
6.4	[+]、[-] をタップして数値を変更し、[OK] をタップする.....	21
7	動作確認 (サイクルコンピューターSGX-CA500 を使用時のみ).....	22
8	トラブルシューティング.....	23
	エラーコード(サイクルコンピューターSGX-CA500 を使用時).....	25

1 準備

1.1 製品の確認

ペダリングモニターセンサーが SGY-PM910ZL/ZR であるか、SGY-PM910Z であるか、および、お客様のサイクルコンピューターが SGX-CA500 であるか、他社製品であるかで、お客様へお渡しするまでの販売店様の作業が異なります。

1.2 手順概要

1.2.1 SGY-PM910ZL/ZR と ANT+サイクルコンピューターの場合

シングルパワーモード: (SGY-PM910ZL/ZR の取り付けセンター出荷状態)

2 [3

1. [マグネットの仮止め]: フレームにマグネットを仮固定します。
2. [3.2.1.3 モードの確認] 電池を抜き差しした後、LED がオレンジ色に 10 秒間点滅することを確認します。
3. [4.2 マグネット検出]: マグネットの検出を行います。電池を抜き差しした後から、5 分以内にセンサー付きクランクを回転させて LED の点灯状態を確認します。
4. [4.3.3 マグネットの固定]: マグネットを固定します。
5. [5 ペ어링]: サイクルコンピューターとセンサーのペアリングを行います。
6. [6 ゼロ点の校正]: ゼロ点校正を行います。

2.1.1 SGY-PM910Z/(ZL+ZR) + ANT+サイクルコンピューターの場合

デュアルパワーモード: (SGY-PM910Z の取り付けセンター出荷状態)

3 [4

1. [マグネットの仮止め]: フレームの左右にマグネットを仮固定します。
2. [4.2.1.3 モードの確認] 電池を抜き差しした後、LED がオレンジ色に 10 秒間点灯することを確認します。
3. [4.2 モードの切り替え]: 2で 10 秒点滅する場合は、モードをデュアルパワーモードに切り替えます。
右側送信機内のプッシュスイッチを 2 秒長押し、LED がオレンジ色に高速に点滅(10 秒)し始めたら、一旦、手を離し、再度 2 秒長押し、LED がオレンジ色に点灯(10 秒)することを確認します。
4. [5.2 マグネット検出]: マグネットの検出を行います。
電池を抜き差しした後、5 分以内にセンサー付きクランクを回転させて LED の点灯状態を確認します。
5. [5.3.3 マグネットの固定]: マグネットを固定します。
6. [6 ペ어링]: サイクルコンピューターとセンサー(右側のデバイス番号で)とペアリングを行います。
7. [7 ゼロ点の校正]: ゼロ点校正を行います。

3.1.1 SGY-PM910ZL/ZR/(ZL+ZR)/Z +SGX- CA500 の場合

ペダリングモニターモード:

4 [5

1. [マグネットの仮止め]: フレームの左右にマグネットを仮固定します。
2. [5.1 モード切り替え]: ペダリングモニターモードに変更します。

ファームウェアのバージョンが 20150501.02.43 以降の SGX-CA500 を用いて、左右どちらか、または両方のデバイス番号を入力し、モード切り替えます。完了するとセンサーの LED が緑色に 10 秒点灯します。

3. [6.3.3 マグネットの固定]: マグネットを固定します。
4. [6.3.4 マグネット校正]: マグネット校正を行います。
5. [8 ゼロ点の校正]: ゼロ点校正を行います。
6. [9 ペダルコピー]: SGY-PM910ZL/ZR どちらか一方の利用の場合: ペダルコピーの設定を行います。
7. [10 動作確認]動作確認。サイクルコンピューターの画面にペダリングのベクトルが表示されることを確認してください。

4.1 本製品のモード

・ SGX-CA500 を使用する時は、ファームウェアが 20150501.02.43 以降になっている必要があります。

・ ペダリングモニターモード:

サイクルコンピューターSGX-CA500 と組み合わせて使用すると、ペダリング効率、ケイデンスなどが計測できます。本製品の機能を最大限活用できます。

・ デュアルパワーメーターモード:

左右センサーが必要です。左右センサーの実際のパワー値を合計したパワー表示とケイデンス計測ができます。SGX-CA500、他社 ANT+ 対応サイクルコンピューターで使用できます。

・ シングルパワーメーターモード:

左または右片側センサーのパワー値を 2 倍にして簡易的なパワー表示とケイデンス計測ができます。SGX-CA500、他社 ANT+ 対応サイクルコンピューターで使用できます。

5 モード切り替え

・ SGX-CA500 を使用する時は、ファームウェアが 20150501.02.43 以降になっている必要があります。

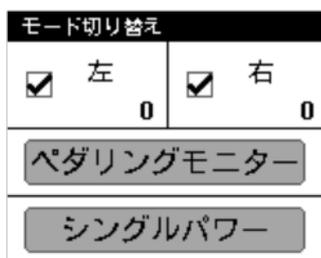
5.1 ペダリングモニターモードへの切り替え

- ・ ペダリングモニターモードへの切り替えには、サイクルコンピューターSGX-CA500 が必要です。他社のサイクルコンピューターでは切り替えできません。
- ・ SGX-CA500 のファームウェアが 20150501.02.43 以降になっている必要があります。違う場合は、ファームウェアをアップデートしてください。アップデート方法やその他の操作方法は、SGX-CA500 の「ユーザーズガイド(WEB 編)」をご覧ください。

<http://pioneer-cyclesports.com/jp/support/products/>

5.1.1 SGX-CA500 の CycloMeter 画面でメニューボタンを押す

5.1.2 [オプション]－[ペダリング設定]－[モード切り替え]の順にタップする



モード切り替え画面が表示されます。デバイス番号が既に表示されている場合は、使用したいセンサーのデバイス番号になっているか確認してください。その場合は、入力操作は不要です。

使用したいセンサーのデバイス番号と異なる場合は、新たに入力してください。

モード切り替えをしないセンサーは、チェックを外してください。

5.1.3 デバイス番号表示部分をタップする



センサーのデバイス番号入力画面が表示されます。

センサーリストに追加しないとセンサーと接続できません。

5.1.4 デバイス番号を入力して[]をタップする。

デバイス番号は右中継ボックスと左センサーの側面に記載されています。

5.1.5 自転車のクランクセットを 3 回以上回転させて、左右の送信機を起動する



- ・送信機を起動してから 5 分以内にサイクルコンピューターとの接続を行ってください。

5.1.6 [ペダリングモニター]をタップする

モード切り替え	
<input checked="" type="checkbox"/> 左 12345	<input checked="" type="checkbox"/> 右 12345
ペダリングモニター	
シングルパワー	

モード切り替え
しばらくお待ちください
キャンセル

モード切り替え	
左:成功	
右:成功	
センサーリストに追加 しますか？	
キャンセル	OK

センサーの検索が始まります。[しばらくお待ちください]というメッセージが表示されます。

- ・センサーとの接続に 1 分以上かかる場合があります。

モード切り替え完了画面が表示されます。

センサーリストに追加にする時は OK をタップします。

5.1.7 SGX-CA500 のセンサーリストに追加にする

センサーリストに追加しないとセンサーと接続できません。

[センサー]メニューを使い、後からセンサーリストに追加することもできます。

モードが切り替わると、センサーの LED が緑色に 10 秒点灯します。

センサーリストに追加にすると、SGXCA500 と接続します。以後、センサーを起動すると SGX-CA500 と自動接続されます。

センサーリストは、CycloMeter のメイン画面で製品左側面のメニューボタンを押し[センサー]をタップすると確認できます。モード切り替え完了画面には、状態によって以下が表示されます。

- ・ [成功]
モード切り替えが完了。
- ・ [タイムアウト]
センサーが見つからない。
- ・ [キャンセル]
キャンセルが押された。
- ・ [電池切れ]
電池が消耗している。

・ タイムアウト: 通信状態が悪化している可能性があります。センサー情報が正しく受信されていません。接続するセンサーが起動していることを確認してから、センサーに SGX-CA500 を近づけ、再度接続操作を行ってください。電波の影響で接続できない場合があります。センサーに SGX-CA500 を近づけて、操作をしても「タイムアウト」が表示される場合は、Wi-Fi などの無線 LAN 機器、電子レンジなどから十分離れたところで再度、接続操作を行ってください。

・ 電池切れ: 電池が消耗しています。電池を取り外し、新品の電池を取り付けてください。

5.2 デュアルパワーメーターモードへの切り替え

- ・ このモードにするには左右センサーが必要です。センサーがペダリングモニターモードになっている時は、サイクルコンピューターSGX-CA500 が必要です。他社のサイクルコンピューターでは 切り替えできません。
- ・ SGX-CA500 のファームウェアが 20150501.02.43 以降になっている必要があります。違う場合は、ファームウェアをアップデートしてください。アップデート方法は、SGXCA500 の「ユーザーズガイド(WEB 編)」をご覧ください。

<http://pioneer-cyclesports.com/jp/support/products/>

以下の 2 通りの切り替え方法があります。

[方法1] 右送信機のプッシュスイッチでの切り替える

[方法2] SGX-CA500 でモードを切り替える

5.2.1 [方法 1]右送信機のプッシュスイッチで切り替える

- ・ 他社のサイクルコンピューターを使用される場合は、この方法で切り替えてください。

5.2.1.1 右送信機カバーのネジを緩め、カバーを取り外す

5.2.1.2 左右の送信機の電池を入れ直す

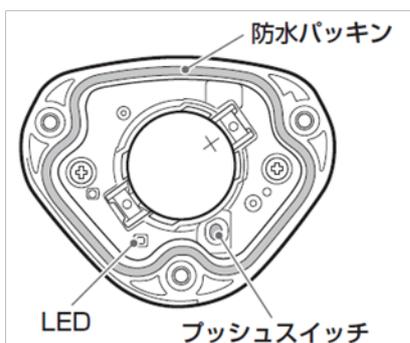
- ・ 電池を入れてから 5 分間、操作が可能です。5 分以内に切り替えを行ってください。5 分経過した場合は再度、左右センサーの電池を入れ直してください。

5.2.1.3 現在のモードの確認

電池を入れると現在のモードによって左右送信機の LED が、以下のように点灯します。

- ・ ペダリングモニターモードの時: **緑色**に 10 秒 点灯
- ・ デュアルパワーメーターモードの時: **オレンジ色**に 10 秒 点灯
- ・ シングルパワーメーターモードの時: **オレンジ色**に 10 秒 点滅

5.2.1.4 モードを切り替える



- ・ モード切り替え操作を行う際は、近くに他のペダリングモニターセンサーがないことを確認の上、実施してください。十分に離れた場所で行わない場合、他のセンサーを誤動作させる可能性があります。



右送信機にあるプッシュスイッチを3秒以上押すと、右送信機のLEDが緑色に点滅を開始します。左送信機と通信できると、左右送信機のLEDがオレンジ色に高速に点滅し始めます。モードを切り替える左右送信機のLEDが点滅していることを確認してください。(点滅していない時は、他のペダリングモニタセンサーと誤って通信している可能性があります。他の自転車とは、離れた場所に移動してから再度、操作を行ってください。)10秒高速に点滅するのでその間に再度、3秒以上押してください。デュアルパワーメーターモードに切り替えられます。切り替わるとLEDがオレンジ色に10秒点灯します。LEDのオレンジ色の高速点滅中に長押ししないとキャンセルされますので再度、操作を行ってください。

・電波状態により、モード切り替えに数十秒程度時間がかかることがあります。

左送信機と通信できない場合は、右送信機のLEDが赤色に5回点滅します。左送信機がペダリングモニターモードになっている可能性がありますので、サイクルコンピューターSGX-CA500でシングルパワーメーターモードに切り替えてから上記操作を行ってください。それでもできない時は、左右送信機の電池を外して1分以上待ってから電池を入れ直して再度、操作を行ってください。モード切り替えが終わったら右送信機カバーを取り付け、ネジを締め付けて固定してください。ネジを締め付けるときは、トルク測定工具を使用してください。

・締め付けトルク: 30 cN·m

・防水性能を保つため、送信機カバーおよびネジは確実に取り付けてください。

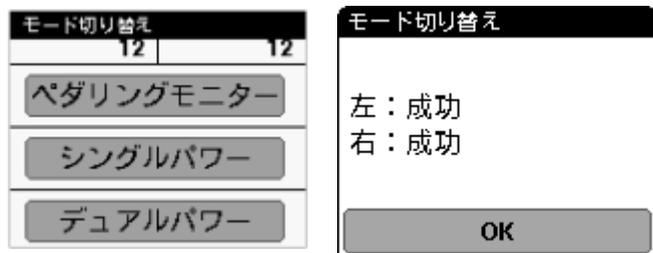
・防水パッキンを紛失しないようにご注意ください。

他社のサイクルコンピューターを使用されている場合は、お使いのサイクルコンピューターの取扱説明書をご覧ください。「デュアルパワーメーターモードに切り替わったらLEDがオレンジ色に10秒点灯します」

5.2.2 [方法 2] SGX-CA500 でモードを切り替える

モード切り替え画面にしてください。

5.2.2.1 左右センサーのチェックが入った状態で[デュアルパワー]をタップする



モード切り替え完了画面が表示されます。

この状態では、まだ、サイクルコンピューターとセンサーは接続されていません。

モード切り替えができない場合は、

5.1.7SGX-CA500 のセンサーリストに追加にするをご覧ください。

モードが切り替わると、センサーの LED がオレンジ色に 10 秒点灯します

5.3 シングルパワーメーターモードへの切り替え

- ・現在のモードがペダリングモニターモードの時は、SGX-CA500 で切り替えてください。
- ・SGX-CA500 のファームウェアが 20150501.02.43 以降になっている必要があります。違う場合は、ファームウェアをアップデートしてください。アップデート方法は、SGXCA500 の「ユーザーズガイド(WEB 編)」をご覧ください。

<http://pioneer-cyclesports.com/jp/support/products/>

以下の 2 通りの切り替え方法があります。

[方法1] 右送信機のプッシュスイッチで切り替える

[方法2] SGX-CA500 でモードを切り替える

5.3.1 [方法 1]右送信機のプッシュスイッチで切り替える

- ・他社のサイクルコンピューターを使用される場合は、この方法で切り替えてください。
- ・デュアルパワーメーターモードの時は、左右送信機が起動していないとシングルパワーメーターモードに切り替えできません。

自転車のクランクセットを回転させて、センサーを起動させてください。デュアルパワーメーターモードの時は、右送信機にあるプッシュスイッチを3秒以上押すとシングルパワーメーターモードになり、LED がオレンジ色に 10 秒点滅します。LED が赤色に点滅する場合は、左送信機が起動していない可能性があります。再度、起動させてください。

ペダリングモニターモードの時は、プッシュスイッチを押してもシングルパワーメーターモードになりません。[方法 2]で切り替えてください。

5.3.2 [方法 2] SGX-CA500 でモードを切り替える

モードがペダリングモニターモード、デュアルパワーメーターモードの時、SGX-CA500 で切り替えできます。モード切り替え画面にします。使用したいセンサーにチェックを入れ、シングルパワーを選択してモードを切り替えてください。

モードに切り替わるとセンサーの LED がオレンジ色に 10 秒点滅します。

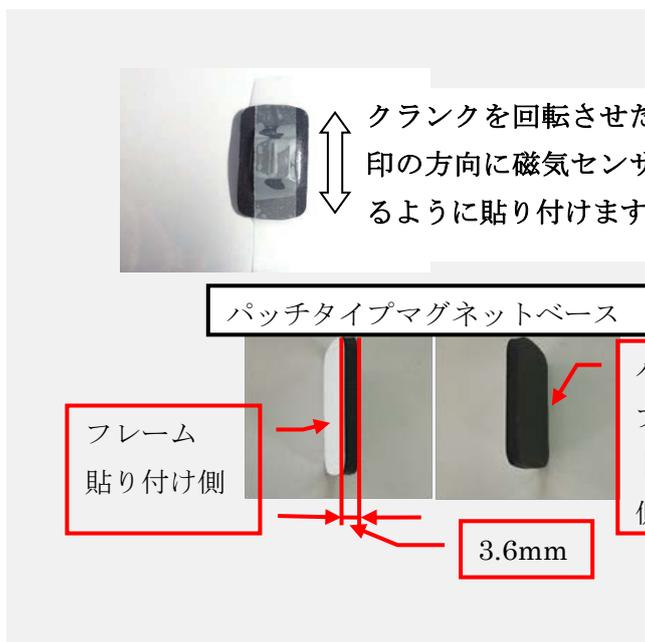
6 マグネット検出/校正

6.1 マグネットの仮止め

注：キャノンデール製は、シマノ製その他のクランクとセンサーの貼り付け位置が異なり、マグネットの取り付け位置も変わりますのでご注意ください(6.1.5 参照)。

6.1.1 パッチタイプマグネットに仮止め用のマスキングテープを貼り付けます。

パッチタイプマグネットの裏面の両面テープは強力なので、マグネット位置が確定するまでは剥がさないようにして下さい。



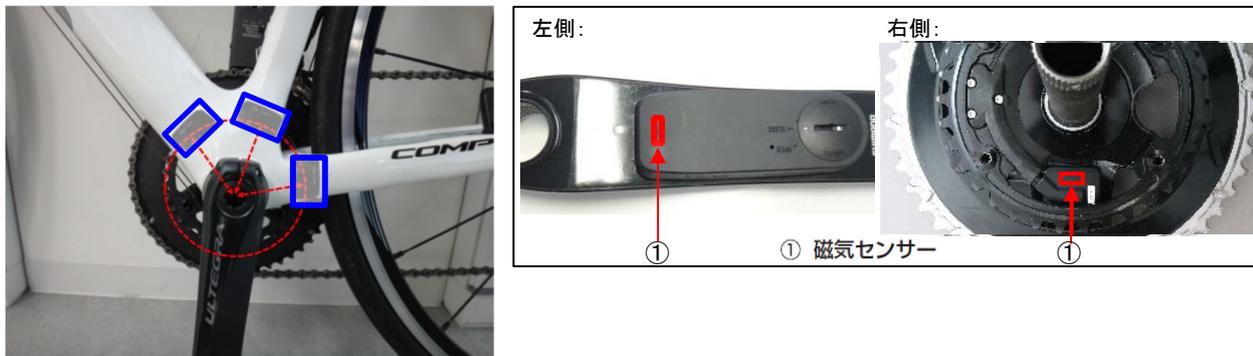
マグネットは基本的にはパッチタイプをご使用ください。

パッチタイプマグネットとセンサーの距離が、**10.7mm 以上ある場合は、パッチタイプマグネットベースをフレーム側に貼って、センサーとマグネット間の距離を縮めるか、1.5mm ~10.7 mm の範囲外の場合は、アームタイプマグネットをご使用下さい。**

注：パッチタイプマグネットベースを使用の場合も、まずは仮止めして確認してください。本固定の際は、パッチタイプマグネットベースをフレームに貼り付けた後に、その上からパッチタイプマグネットを貼るようにしてください。

6.1.2 クランクを回転させ、マグネットを取り付ける位置を確認します。

マグネットを取り付ける位置は、以下のようなクランク軸を中心とした円周上の位置となります。
(磁気センサーが通過する位置です。)



取り付け位置(磁気センサーの通過位置)の目安

左側:クランク軸 の中心から半径 約53mm の位置

右側:クランク軸 の中心から半径 約42mm の位置

左の写真では代表的な 3 か所(青口)の取り付け位置を示しています。

6.1.3 マグネットを仮止めします。

左側、右側ともにマグネットとセンサーの距離 が

1.5mm 以上、10.7 mm 未満

であることを確認します。

上記の範囲内に入らない場合は、

シートチューブ(写真右)

または、ダウンチューブ

に取り付けて、マグネットと

磁気センサーの距離が範囲内に入っていることを確認します。

範囲外の場合は、アームタイプ
マグネットを使用します。



6.1.4 クランクをゆっくり回転させます。

マグネットがセンサーなどに接触していないことを確認します。

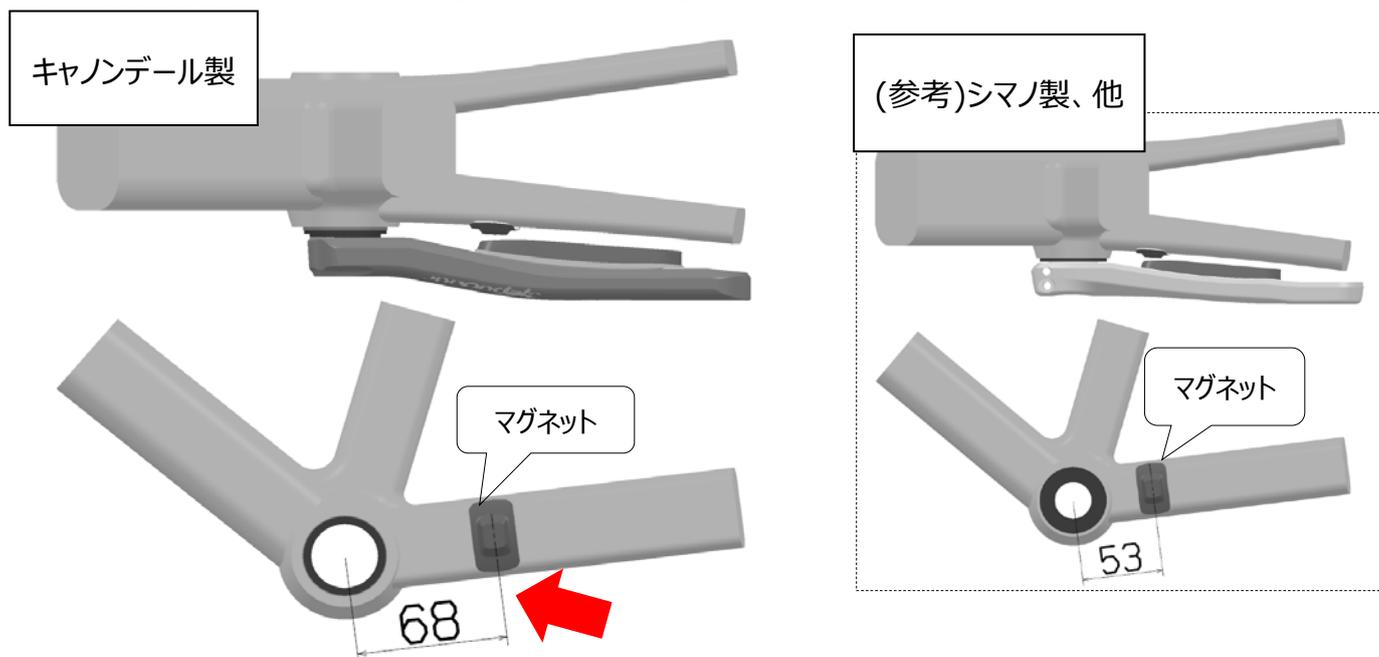
6.1.5 キャンデール製クランク(SiSL2/Si)マグネット取付時の注意

注：キャンデール製は、シマノ製その他のクランクとセンサーの貼り付け位置が異なり、マグネットの取り付け位置も変わりますのでご注意ください。

6.1.5.1 マグネットの取り付け位置について

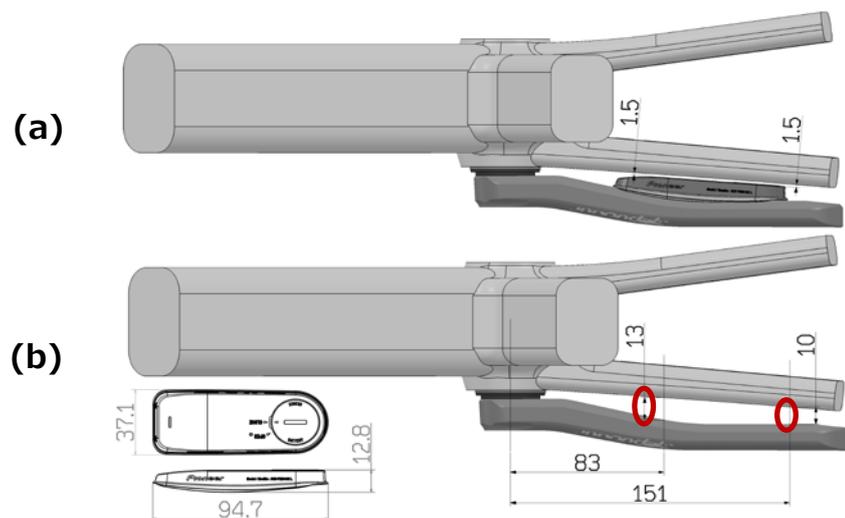
下図(左)のように、キャンデール製クランクの場合、フレームへのマグネットは BB センターから 68mm の位置に取り付けてください。

別紙の“販売店様向けスタートガイド”を参照にマグネットを取り付ける際、68mm に読み替えて対応願います。



6.1.5.2 フレームとのクリアランスについて

下図の(a)のように、センサーがクランクに取り付けられた状態で、チェーンステアとセンサーとの間隙は 1.5mm 以上必要です。そのためには、下図の(b)のように、センサーが取り付けられる前の状態で、クランクとフレームとの間隙は BB センターから 83mm のところで 13mm 以上、BB センターから 151mm のところで、10mm 以上必要です。



6.2 マグネット検出(他社サイクルコンピューター使用時)

Ant+サイクルコンピューターが他社の場合、マグネットが正しい位置貼りついているか確認します。

6.2.1 準備

1. ローラー台等に、自転車を設置します。
2. 左右のセンサーの電池を抜き差しします。(マグネット検出期間:電池抜き差しした後、5分以内)

6.2.2 マグネット位置の検出

クランクを 30rpm 程度でゆっくり正回転させて、1 回転に 1 度、左右の LED が **緑色** に点灯することを確認します。緑色が確認できたら、**6.3.3 マグネットの固定**を行います。

7 LED が点灯しない場合:センサーとマグネット間の距離が離れすぎている



か、センサーがマグネットの上を通過していません。6

マグネットの仮止めの項を確認してください。)

7.1 マグネット校正(サイクルコンピューター-SGX-CA500 を使用時)

左右のセンサーを有していて、サイクルコンピューターに SGX-CA500 を使用している場合、マグネット校正が必要です。

- ・マグネット校正とは、マグネットの位置を検出して正確なベクトル表示を行うための重要な作業ですので必ず実施して下さい。
- ・マグネット校正を行うには、サイクルコンピューター-SGX-CA500 が必要です。他社のサイクルコンピューターではできません。また、センサーのモードがペダリングモニターモードである必要があります。
- ・SGX-CA500 のファームウェアが 20150501.02.43 以降になっている必要があります。違う場合は、ファームウェアをアップデートしてください。アップデート方法やその他の操作方法は、SGX-CA500 の「ユーザーズガイド(WEB 編)」をご覧ください。

<http://pioneer-cyclesports.com/jp/support/products/>

7.1.1 準備

1. ローラー台等を利用して、自転車を前後輪の高さが同じになるように水平に設置します。

クランクを 3 回以上回転させます。(左右の送信機がスリープ状態から起動します。)

7.1.2 マグネット位置の検出

8 マグネットは、6

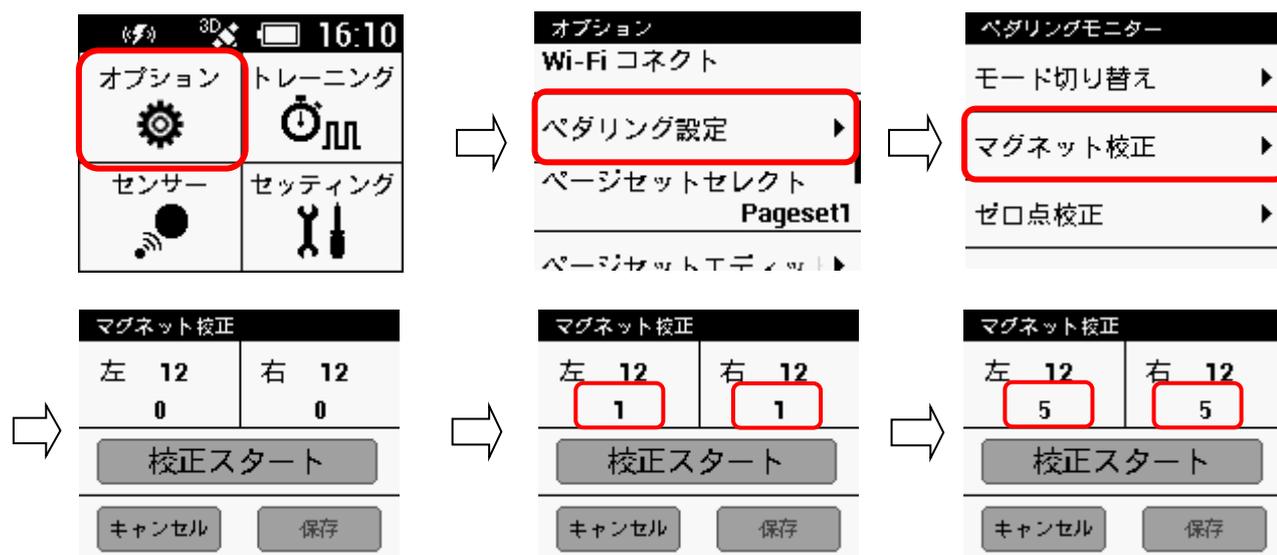
マグネットの仮止めの状態で、SGX-CA500 を操作して、マグネット校正の画面を出します。

「オプション」⇒「ペダリング設定」⇒「マグネット校正」を押します。

クランクを 30rpm 程度でゆっくり正回転させて、1 回転に 1 度、カウントが1つつ上がることを確認します。

カウントアップしない場合は、マグネットの位置を再調整してください。

注:ここでは、まだ「校正スタート」のボタンは押しません。

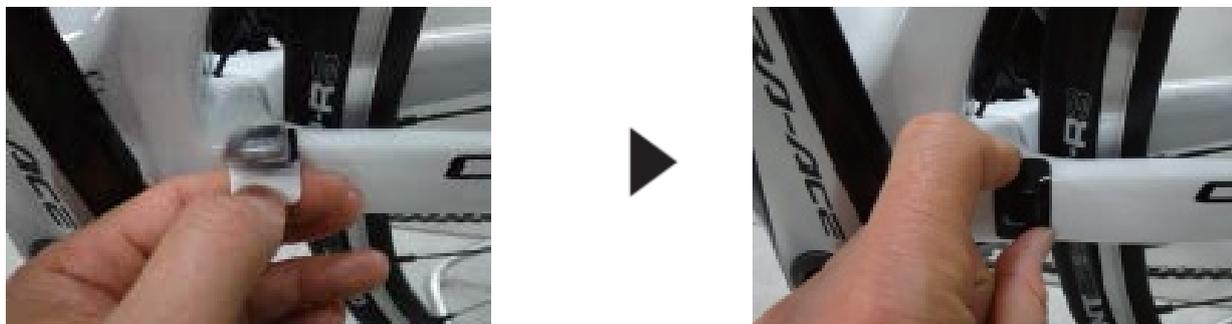


8.1.1 マグネットの固定

調整した位置がずれないように注意しながら、マグネットを固定します。

調整した位置がずれないように、マスキングテープの片側のみを剥がします。

マグネット裏の剥離紙をはがし、仮止めした位置と同じ位置にマグネットを貼って下さい。



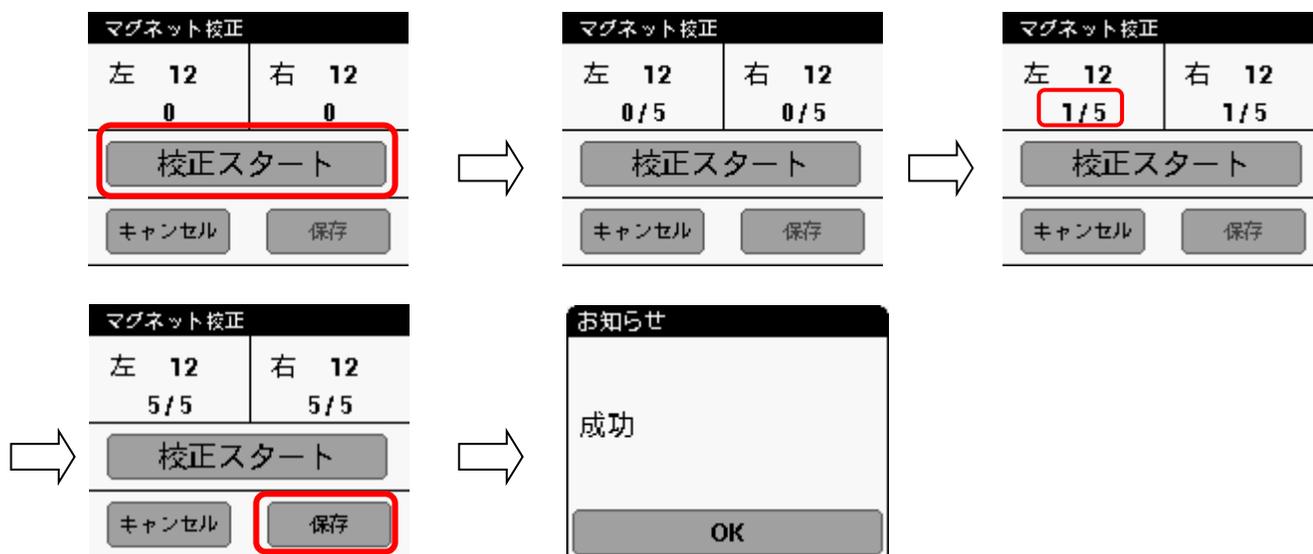
8.1.2 マグネット校正

8.1.1 マグネットの固定を行った後、マグネット校正を行います。「校正スタート」のボタンを押します。

クランクを 30rpm 程度でゆっくり正回転させて、1 回転に 1 度、「マグネット校正」画面にてカウントが 0/5 から 1/5 と1つつ上がることを確認します。

カウントが 5/5 以上になると、「保存」ボタンがアクティブになることを確認します。

「保存」ボタンを押して成功とメッセージが表示されれば OK です。「OK」ボタンを押して下さい。



9 サイクルコンピューターとの接続

自転車に取り付けたペダリングモニターセンサーをサイクルコンピューターSGXCA500に接続します。

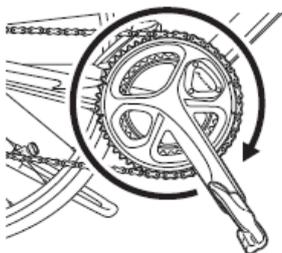
本製品を他社のサイクルコンピューターと使用する場合は、接続の方法が異なります。お使いのサイクルコンピューターの取扱説明書をご覧ください。

5.1.7SGX-CA500 のセンサーリストに追加にするで、既に、ペアリングしている場合は、以下の処理は不要です。

9.1 センサーのモードを確認する

現在のモードは、電池取り付け時のセンサーのLEDの点灯の仕方か、各モード切り替え時のLEDの点灯の仕方で確認できます。

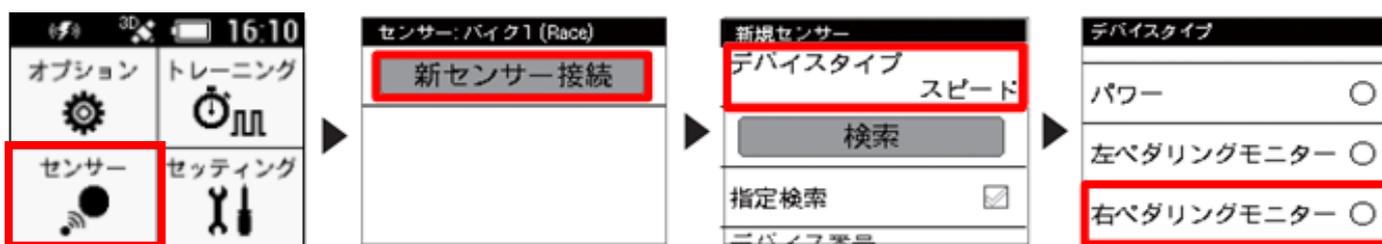
9.2 左右のセンサーを起動させるためにクランクを3回以上回転させます。



9.3 サイクルコンピューターSGX-CA500で接続するセンサーを選択します。

SGX-CA500の[メニュー]ボタンを押し、

[センサー]—[新センサー接続]—[デバイスタイプ]—[右ペダリングモニター]の順にタップします。

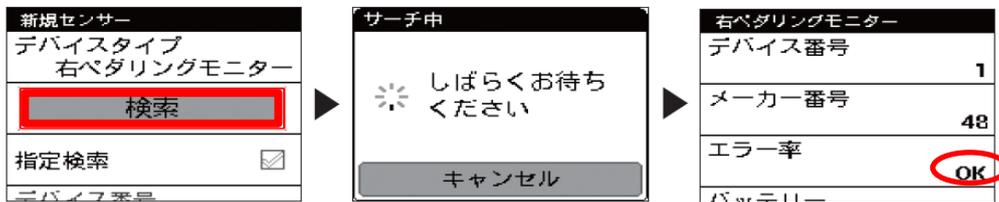


(ドラックしてスクロールして探します)

9.4 [検索]をタップします。

[エラー率]に「OK」と表示されていれば、接続成功です。

検索状態が1分以上かかる場合は、手順 9.1 に従いセンサーを起動し再度「検索」をタップしてください。

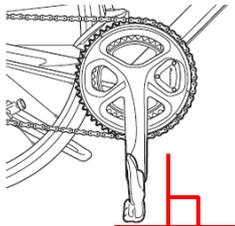


以上で右送信機の接続は終了です。同様に左送信機の接続を行ってください。

10 ゼロ点の校正

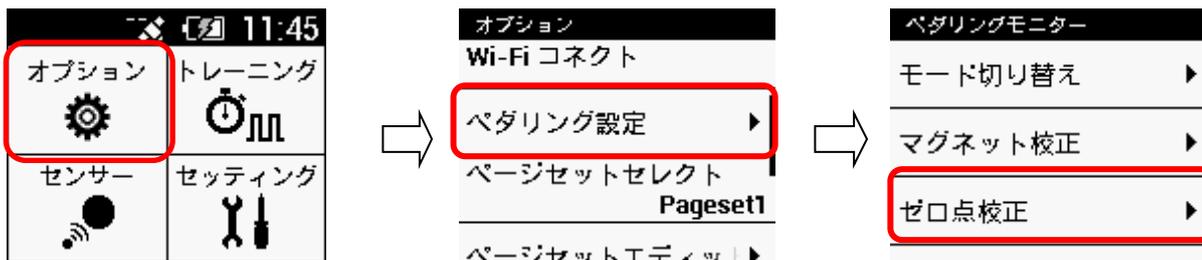
サイクルコンピューターSGX-CA500 を使って、ペダリングモニターセンサーのゼロ点校正を行います。

- 1 ローラー台等を利用して、自転車を前後輪の高さが同じになるように水平に設置します。
- 2 左右のセンサーを起動させるためにクランクを 3 回以上回転させます。
- 3 ペダルを装着した状態でクランクアームを地面に対して垂直になる位置で静止させます。



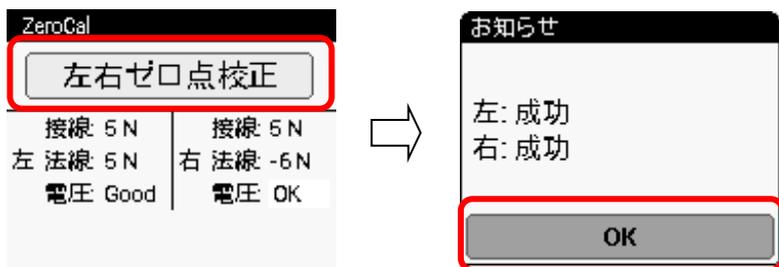
10.1 ゼロ点の校正を選択します。

「オプション」⇒「ペダリング設定」⇒「ゼロ点校正」を押します。

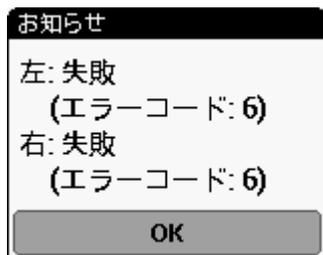


10.2 校正を開始します。「左右ゼロ点校正」をタップします。

校正に成功すると、[結果]欄に「成功」と表示されます。「OK」ボタンをタップします。



注：



「失敗」と表示された場合は、クランクが動くなど安定しない状態で校正が行われた可能性があります。クランクを静止させた状態で再度ゼロ点校正を行ってください。

10.3 校正の確認

センサーが正しく校正されているか確認します。

10.3.1 クランクにかかる力が0(無負荷)であることを確認します。

SGX-CA500 の「ゼロ点校正」に表示されている数値が下記の範囲にあることを確認します。

- ・接線方向フォース: $0 \pm 3\text{ N}$
- ・法線方向フォース: $0 \pm 3\text{ N}$



数値が範囲外の場合は、クランクが動くなど安定しない状態で校正が行われた可能性があります。
クランクを静止させた状態で再度ゼロ点校正を行ってください。

お客様にもゼロ点校正を実施していただくようご説明願います。

購入後一ヶ月間程度は一週間に一度、その後は気温が 4°C 以上変化した際、または月に一度程度目安として実施して下さい。

11 ペダルコピー

ペダルコピーは、ペダリングモニターモード時のみ有効です。片側のみセンサーを装着した場合、反対側にもデータをコピーしてサイクルコンピューターに表示させ、ログに記録させることができます。現在のバイクについてペダルコピーの選択、バランスの設定を行うことができます。

11.1 CycloMeter 画面でメニューボタンを押す

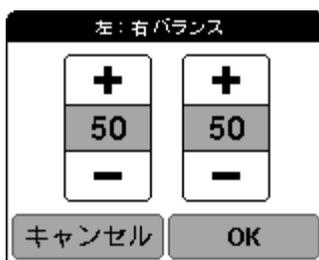
11.2 [オプション]－[ペダリング設定]－[ペダルコピー]の順にタップする。

コピーしたい方法を選択する



11.3 バランスを変更したい時は、[左:右バランス]をタップする

11.4 [+], [-]をタップして数値を変更し、[OK]をタップする



・ 左右を間違えて設定した場合、正しいパワー表示ができなくなりますのでご注意ください。

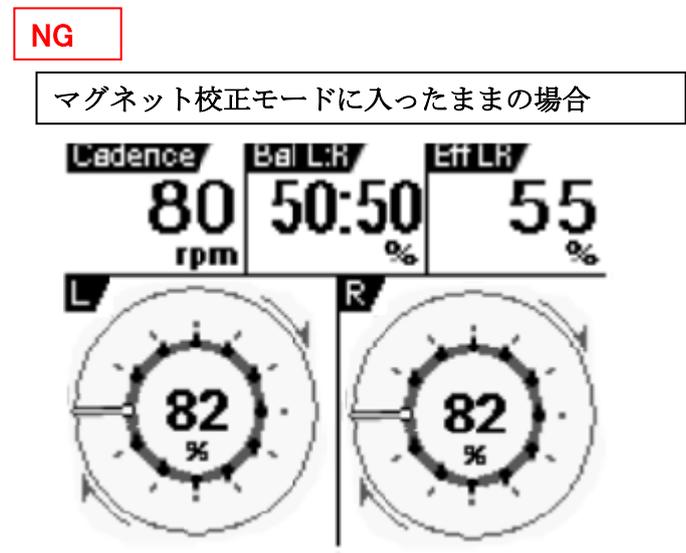
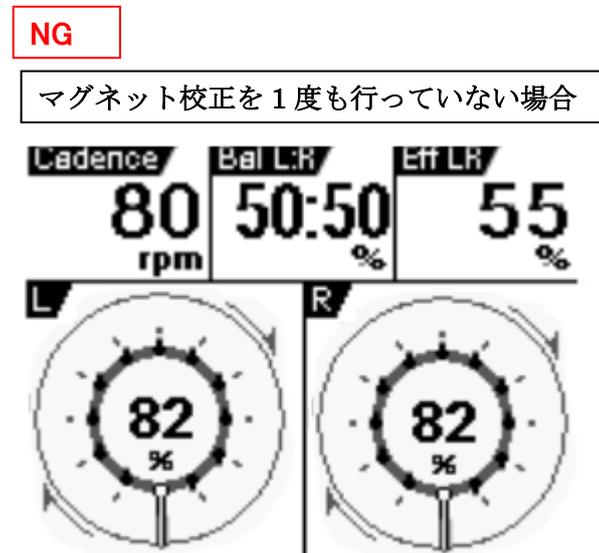
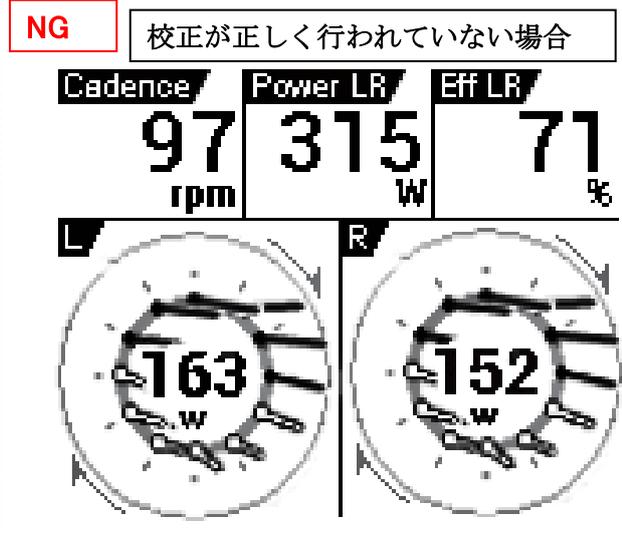
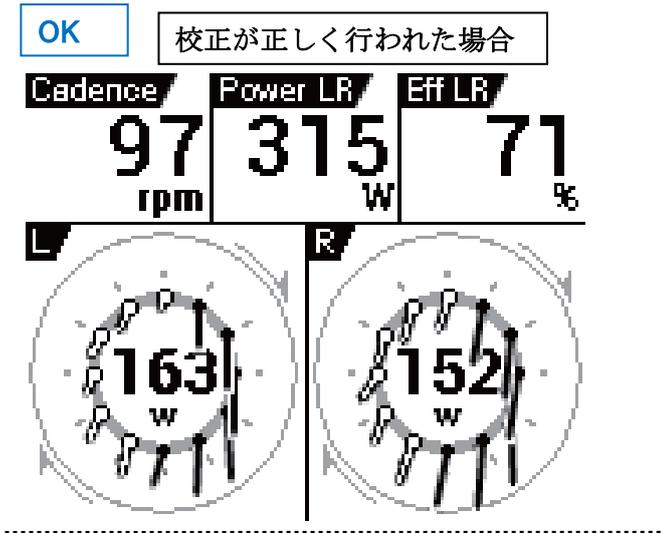
12 動作確認(サイクルコンピューターSGX-CA500 を使用時のみ)

ペダリングモニターモードで使用時のみ:

7.1 マグネット校正および 10 ゼロ点の校正完了後、乗車して自転車をこぎ、サイクルコンピューターの画面にペダリングのベクトルが表示されることを確認してください。

・ベクトルの向きが正しくない場合は、マグネット校正が正しく行われていないのでマグネット校正をやりなおしてください。

・ベクトルが表示されない場合はセンサーモードがペダリングモニターモードになっているか等を確認してください。



13 トラブルシューティング

	質問	回答
サイクルコンピューター	モード切り替えのメニューが無い	サイクルコンピューターSGX-CA500のファームウェアを最新の状態にアップデートしてください。 [オプション]⇒[ペダリング設定]の[モード切り替え]を確認してください。
	SGX-CA500を用いてモード切り替えができない。「タイムアウト」と表示される。	左または右のセンサーのデバイス番号を確認してください。 (デバイス番号の場所の説明) 最初にセンサーを起動する必要があります。クランクを3回転以上回して、センサーを起動してから実施してください。 マグネットの取り付けを確認してください。マグネット校正前の場合はマグネットを仮止めしてください。
	SGX-CA500を用いたモード切り替えで「電池切れ」とメッセージが表示された	電池を新品に変えてください。電池を入れた後にLEDが点灯することを確認してください。 (LEDカラーとモードの説明参照)
	SGX-CA500を用いたマグネット校正モードでクランクを回転させてもマグネットをカウントしない	最初にセンサーを起動する必要があります。マグネットをフレームに仮止めして、クランクを3回転以上回して、センサーを起動してから実施してください。 左または右のセンサーのデバイス番号を確認してください。 マグネットの位置、向き、センサーとの距離を確認してください。
	SGX-CA500を用いたマグネット校正モードで正回転でゆっくりまわす旨のメッセージがでる。	クランクをゆっくり正回転してください。逆回転の場合は正しくマグネット校正ができません。
	SGX-CA500を用いたマグネット校正モードで校正結果を保存できない。	マグネットの仮固定で毎回転のカウントアップが確認できましたら、マグネットを本固定して、「計測」ボタンを押してください。表示が0/5に切り替わります。マグネット検出のカウンターが5/5になるようにクランクセットをゆっくり回転してください。5/5になると、保存ボタンが有効になります。 マグネット校正モードは30分以内に完了してください。30分以上経過した場合はセンサーが通常モードに戻ります。一度Backボタンを押してマグネット校正のツールを終了し、もう一度マグネット校正モードを行ってください。マグネット校正モード中にセンサーSGY-PM910V,910ZL,910ZRの電池を交換し場合も同様です。(挙動を確認する)
	SGY-PM910ZLまたは910ZRでベクトルデータが片側しか表示されない。	SGX-CA500のペダリングコピー機能を設定する必要があります。910ZLの場合は左から右へ、910ZRの場合は右から左にコピーを設定してください。 [オプション]⇒[ペダリング設定]の[ペダルコピー]を確認してください。 メニューが見つからない場合はサイコンSGX-CA500のファームを最新にアップデートしてください。
	センサーファームアップデートができない。	[オプション]⇒[ペダリング設定]の[ファームウェアの更新]を確認してください。 メニューが見つからない場合はサイコンSGX-CA500のファームを最新にアップデートしてください。 アップデートには15分以上かかる場合があります。
	[非公開]片側がデュアルパワーメーターモードでロックしてしまった。シングルパワーメーターモードに変更したい。	電池抜き差し後、1分以内に逆回転20回転でシングルパワーメーターモードに切り替わります。左右の両方とも実施して、シングルパワーメーターモードにしないと、そのあとのデュアルパワーメーターモードへ戻せなくなるのでご注意ください。

	質問	回答
ペダリングモニターセンサー SGY-PM910Z/ZL/ZR	右のボタンを長押しにしてもモード切り替えができない	センサーSGY-PM910Zはモード切り替えの操作方法が変更になっています。または、 ・デュアル⇔シングル切り替え方法参照 ・SGX-CA500を用いた切り替え方法参照
	右送信機のボタンを6秒以上押ししてもマグネット校正モードに入らない	センサーSGY-PM910Zはモード切り替えの操作方法が変更になっています。 ・SGX-CA500を用いたマグネット校正参照
	右送信機のボタンを短押ししてもLEDが点灯しない。	センサーSGY-PM910Zはモード切り替えの操作方法が変更になっています。 ・電池の抜き差し ・SGX-CA500を用いたモード切り替え方法参照
	マグネット検出のLEDが点灯しない	電池を新品に交換してください。 マグネット検出モードは電池の抜き差し後の5分間だけ点灯します。LEDが点灯しない場合はもう一度電池の抜き差しをいれてください。 マグネットの位置、向き、センサーとの距離を確認してください。
	シングルパワーメーターモードからデュアルパワーメーターモードに切り替わらない	右送信機のプッシュスイッチを長押しする前に、左右の電池を抜き差しして5分以内に右送信機のプッシュスイッチを用いたモード切り替えを実施する必要があります。
	デュアルパワーメーターモードでANT+対応サイクルコンピューターと接続ができない	デュアルパワーメーターモードでご利用の場合、センサーのデバイス番号は右側のセンサーのデバイス番号となります。
	デュアルパワーメーターモードからシングルパワーメーターモードに切り替わらない	最初にセンサーを起動する必要があります。クランクを3回転以上回して、センサーを起動してから実施してください。 デュアルパワーメーターモードのペアリングされているセットで実施する必要があります。異なる組み合わせの場合はシングルパワーメーターモードに切り替わりません。
	電池交換後にモードがペダリングモニターモードに戻らない	SGY-PM910Zは、電池交換後の以前のモードを記憶しています。

エラーコード(サイクルコンピューターSGX-CA500 を使用時)

校正時にエラーが発生すると、エラーコードが表示されます。

コード	エラーの内容	対応
2	電池容量不足	電池交換
3	断線の可能性あり	修理受付窓口に相談してください。
4	ゼロ点校正が目標値から大きくずれている	浸水 ^{*1} などによる製品故障の可能性があります。 修理受付窓口に相談してください。
6	校正中に揺れなどによる大きなノイズを検知	1.クランクが動くなど安定しない状態で校正が行われた可能性があります。 クランクを静止した状態で再度ゼロ点校正を行って下さい。 2.通信状態が悪化している可能性があります。 Wi-Fiなどの無線LAN 機器、電子レンジなどから十分離れたところで、 再度ゼロ点校正を行って下さい。 3.浸水 ^{*1} などによる製品故障の可能性があります。 修理受付窓口に相談してください。
13	急な温度変化中 (対応:20170829_01(Ver6.033)以降)	少し時間をおいて、温度が馴染んでから再度ゼロ点校正を行ってください。

*1:送信機カバー締付け不良、パッキン取付不良、送信機カバー劣化等により防水性能を失うことがあります。